

新しい福祉電話「ふれあいSⅡ」を使用して・・・

2011年6月に新しい福祉電話が発売されるとNTTから発表された。正式名称をシルバーホン・ふれあいSⅡという。言うまでもないことであるが、電話機は社会と個人を結ぶ重要なファクターであり、重度の身体障害者にとっては命を繋ぐ生命線でもある。新しい福祉電話発表されるということは、それはやはり福音なのである。購入金額は61740円だが、これまで通りレンタル価格があり、577.5円となっている。(この料金に小数点が発生するのは意味が不明である・・・) 詳細は以下ホームページアドレスでどうぞ。余談になるが、次はぜひドコモの携帯電話・D800IDSの後継機種を発表して欲しいものである。

http://web116.jp/shop/goods/fureais2/fureais2_04.html

私は、この7月に同機を導入したので、申込みから設置、その使用感に至るまで報告しようと思う。(私は重度の四肢マヒで、自分の独力ではダイヤルすることも受話器を持ち上げることもできない。でもこのシリーズには、外部スイッチを使用しての、オートスキャン機能を利用すれば、自分の意のままに電話を使用することができる。現在この機能を持っている固定電話は、NTTだけだと理解できる。自分だけで電話がかけられるということは、介助者の手を借りなくて済むということであり、これはプライバシー保護の保障ともいえる。NTTが公的な役割をいまだ担っていることに感謝する。

この福祉電話のふれあいシリーズは、同機で第三世代にあたる。私は、第一世代の「ふれあい」も第二世代の「ふれあいS」の両方を使用していた。世代交代＝機種交代は、時代の流れに即し、「陳腐化したものは廃れ、新しく必要な機能が盛り込まれる。」時代感覚的には、かなり遅れている気もするが、ふれあいシリーズもここで一気に進化した。

「ふれあいSⅡ」の最新機能を紹介しよう。まず、オートスキャンを利用して、①通話中もトーン信号が発信できることだ。最近、どこかのメーカーやサービスを利用して、カスタマーセンターに問い合わせをしようすると、自動応答メッセージが再生され、トーン信号を要求されることがある。第二世代の「ふれあいS」では、本体自体がトーン信号を発信できても、通話中はオートスキャンにはならず通話が切れてしまう。今回この改善点が一番大きいと思うが、他にもいくつかある。例えば、通話履歴が記録される。②オートスキャンで発信履歴をもとに、再ダイヤルすることもできるし、着信履歴から直接ダイヤルすることも可能だ。ただし、この場合、固定電話は携帯電話と異なり、「ナンバーディスプレイ」というサービスを申し込まないとならない。工事費が2100円で、月々別に料金(420円)がかかるらしい。工事費がちょっと高いので、本当に必要かどうか見極めた方がいいと思う。③オプションで、増設コードレスセットNA(ハンドフォン＝無線子機)がある。従来は、入浴時などベッドから離れると電話に対応できなくて、時を逸することも多かったが、この増設コードレスセットNAを洗面所などに設置することで、タ

イムリーに電話を受けることができるようになり、少しストレスが解消された。④短縮ダイヤル20件が、電話帳100件になり、記録数が格段に増えた。ワンタッチボタンが従来通り5つあるが、その⑤ワンタッチ第5ボタンに「あんしん」機能を割り当てることができる。この機能は、緊急通報システムのようなが、この機能だけはオートスキャンには対応していない。長く押した状態を保持すると、発動してしまうので、壁掛け用に設置するときなど、理解しておいた方がよいだろう。⑥自動着信機能が自動応答と名称が変更され、自動応答のための鳴動回数が1～9まで設定できるようになった。他にもいくつか改善されている点はあるが、一つだけ念を押しておく、機能が増えるということは、より操作が複雑になるということなので、それが大変だという人には、必ずしも簡単で便利ではないかもしれないが、できることが増えた、時代のニーズに応えてくれたということは間違いないと思う。また、以前の世代から使用している人にとっては、若干操作感が異なる部分があるので言い添えておく。それは例えば、オートスキャンの循環が当然長くなっていることやダイヤルの順番が変更されていることなどである。また、ハンドフリーボタンを連続操作すると再ダイヤルできることは以前から変わらないが、今回からハンドフリーボタンを2回連続操作した段階での予備発信音は無くなっている。3回目を操作すると、いきなり発信してしまうので、ここだけは注意が必要だ。予備発信音がしないと従来からのユーザーは、ハンドフリーボタンへの操作を一つミスしたと思い、再度入れ直そうとする…すると、せっかくかけた電話が切れてしまうことになる。こういう部分もあるが、変わってしまったものは仕方がない。慣れるしかないのである。

最後に、NTTに電話で申し込む際の注意点を挙げたいと思う。まず問い合わせ先は116ではなく、専門の窓口が用意されている。フリーダイヤル0120-506116なのだが、担当者は福祉電話の専任ではないので、実はあまり「ふれあいSⅡ」のことをよく知らない。私は何度も、「6月に報道発表され、7月に発売された福祉電話のふれあいSⅡだ」と繰り返した。

設置は、NTTの専門の子会社の担当者が持参して、取り付けてもくれる。しかし、この担当者も同機のことを当然理解してはいない。従って、壁掛けにする際は、必要な人材となるが、第二世代の「ふれあいS」から移行する場合は、「担当者も知らない特段の注意」が必要となる。というのは、外部スイッチの接続形式が受話器用のモジュラージャックから、3.5ミリモノラルジャックに変更されているからだ。私は、環境制御装置を外部スイッチとして利用しているので、業者に作成依頼をした。（大番ビル・福祉サービス 松本090-2185-2748）依頼内容は、モジュラージャックからモノラルジャックへの変換ケーブルだ。それにより、環境制御装置からケーブルの取り外す手間を省略した。商品の代金は、2000円弱程度だったと思う。

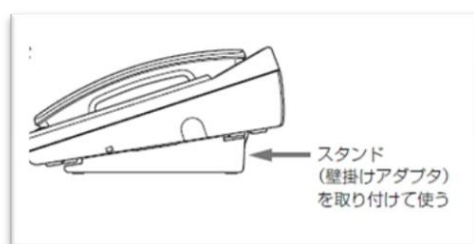
最後に、増設コードレスセットNAを設置するときの注意だ。これは許されるならば、本体と一緒に導入される方がよいと思う。実は私は後から導入したのだが、うまくいかな

かった。作業としては、無線装置設置に伴う初期化が必要となる。そのため、壁掛けから外したり、電池を外したりするため、一時的に受話器や電話線を外すことが必然となる。この電話線を戻す際、元の場所に戻せばよかったのだが、実は高齢者向けの骨伝導ハンドセットSの接続口が電話線用と同じ形状で、この口に挿してしまった。私も介助者もこの間違いに気が付かなかった。初期化もできないし、通話もできない…。結局NTTの0120-506116経由で、113故障係に助けを求めることになった。重度の身体障害者である事情を理解しているので、対応は速攻だった。感謝である。ちなみに、故障の担当者は障害者宅とは全く知らず、しかも新しい機器だったので、多少対応に苦慮したようだが、すぐに気づき、初期設定までもしてくれて、無事対応してくれた。原因を尋ねた私が、そのあとに平謝りしたことは言うまでもない……。ちなみに無線設定は、一台目だったので、デフォルトで認識された。現在、無事に使えている。

謝意

この福祉電話は、第一世代から現在まで1人のリハビリ・エンジニアが大きく関わっている。畠山卓朗氏である。現在、早稲田大学人間科学学術院の教授であり、障害者や福祉用具のことを考えてくれたり、学生の指導にあたってくれている。きっとこの学生の中から、これからの日本を支える人材が育って行くことだろう。畠山氏からは、今回開発段階からご連絡を頂いた。そのため、早い段階で同機を導入することができた。このレポートを発表することでお礼に変えたい。

平成23年7月 自宅にて 文責 内山 幸久 48歳 大田区在住頸椎損傷者

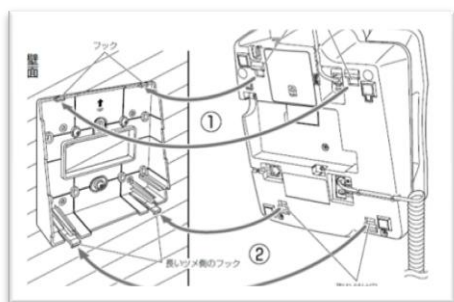


スタンドは標準セットである。



無線子器も壁掛けに…

お風呂場から見たトイレ洗面所



スタンドを壁掛けにできる。



環境制御装置の呼気スイッチでオートスキャン